

9 - 2 中国・四国地方の地殻変動

Crustal Movements in the Chugoku and Shikoku Districts

国土地理院

Geospatial Information Authority of Japan

[水準測量]

第1～3図は、室戸岬周辺の水準測量結果である。

第1図は、徳島県海陽町から美波町に至る区間の水準測量結果である。前回の測量は、約3年前の2013年8～10月である。最新の結果では特段の変化は見られない。

第2図は、高知県室戸市から徳島県海陽町に至る区間の水準測量結果である。室戸岬側の沈降の傾向に変化は見られない。

第3図は、水準測量による室戸地方の上下変動の経年変化である。今回の測量結果は、長期的な室戸岬先端の沈降傾向の延長上にあるように見える。

[GNSS 豊後水道のゆっくり滑り]

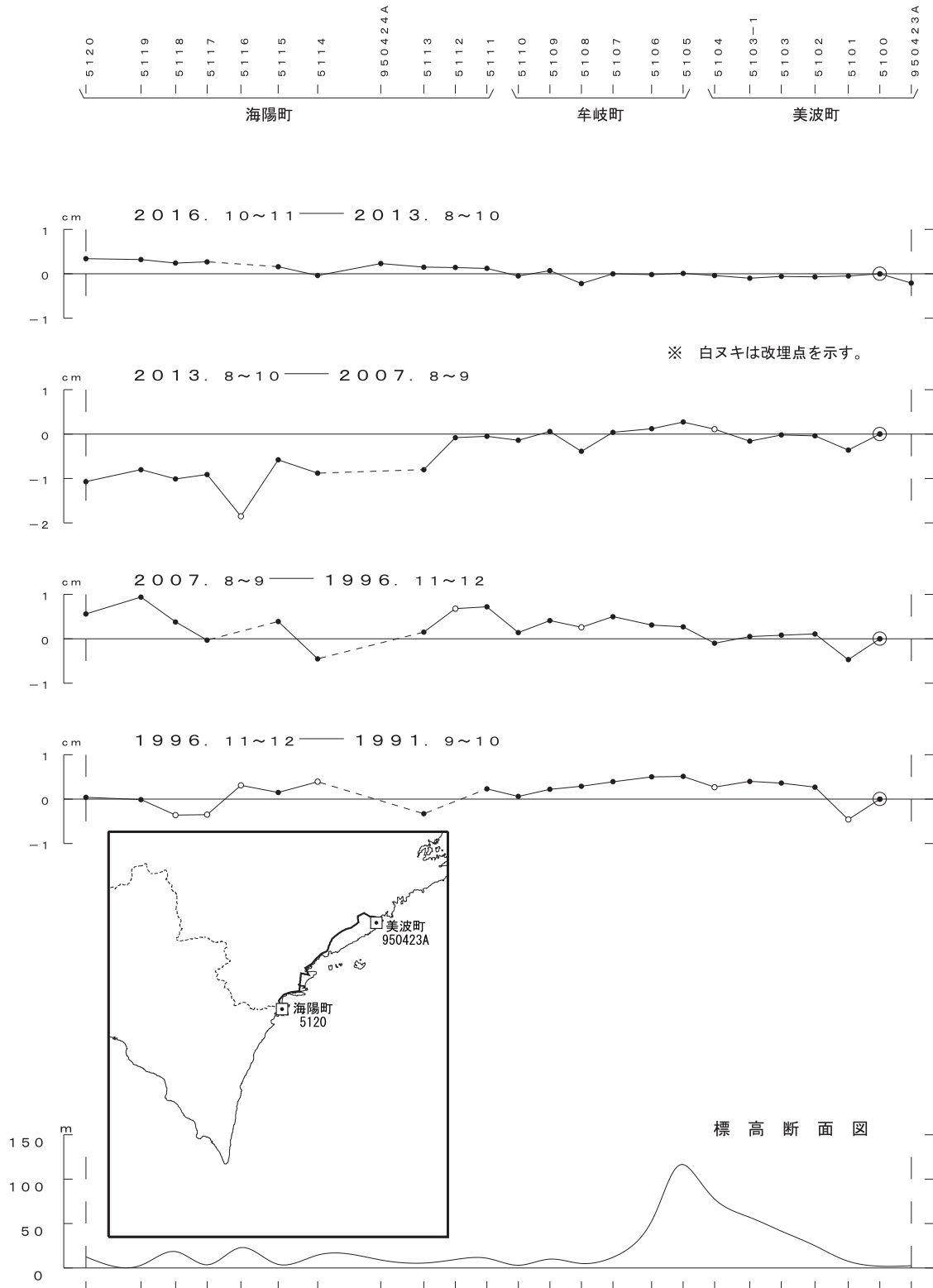
第4～5図は、豊後水道の長期的SSEに関する資料である。

第4図上段の2016年10月から2017年1月にかけての非定常地殻変動水平ベクトル図では、特段の変動は見られない。

第4図下段及び第5図は、四国南西部の豊後水道周辺の電子基準点について、基線ベクトル3成分の時系列グラフを並べたものである。2015年12月頃から南東向きの非定常地殻変動が始まっていたが、2016年9月頃から鈍化し、2016年12月頃にはほぼ収まったように見える。

海陽町～美波町間の上下変動

特段の変動は見られない。

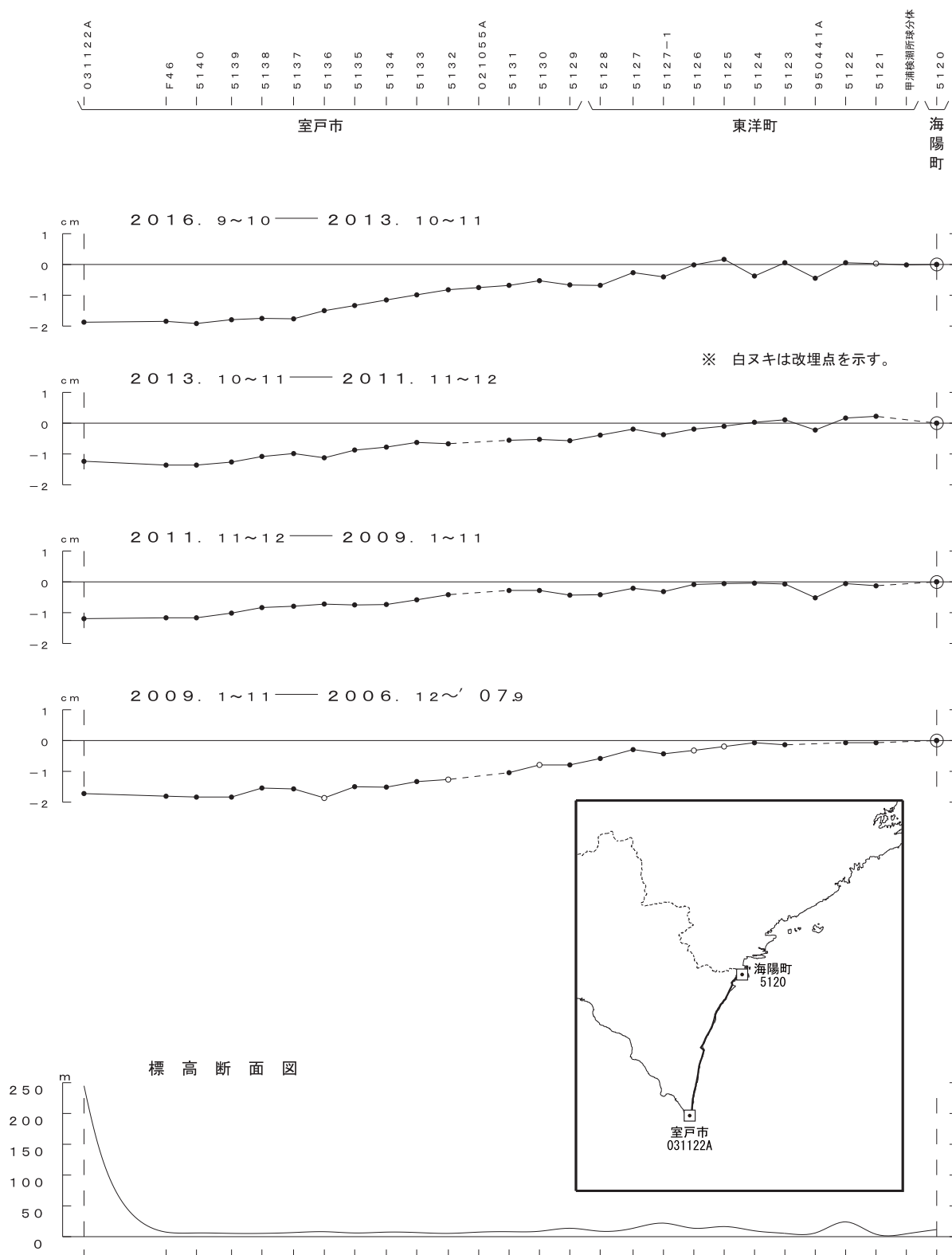


第1図 海陽町～美波町間の上下変動

Fig.1 Results of leveling survey along the leveling route from Kaiyo town to Minami town.

室戸市～海陽町間の上下変動

傾向に変化は見られない。

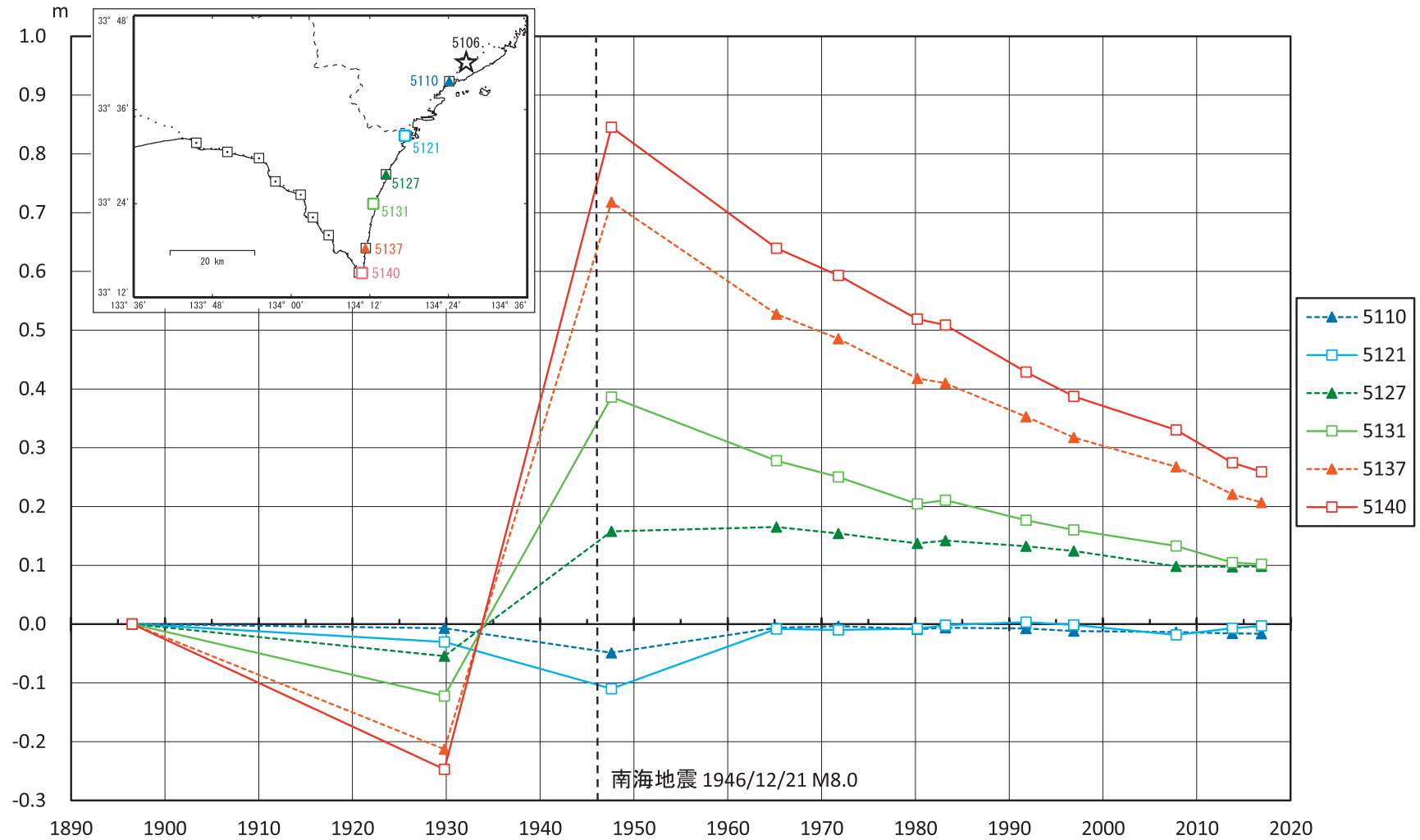


第2図 室戸市～海陽町間の上下変動

Fig.2 Results of leveling survey along the leveling route from Muroto city to Kaiyo town.

1896年を基準とした室戸地方の各水準点の経年変化

室戸岬側の沈降が継続している。

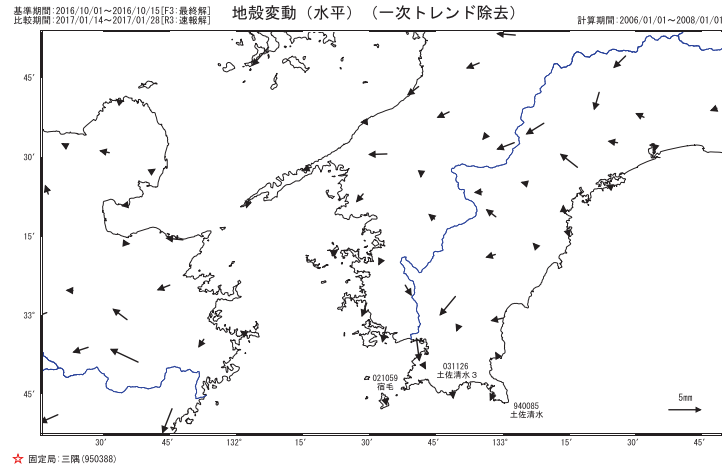


第3図 水準点5106（牟岐市）を基準とした室戸岬周辺の各水準点の高さの上下変動時系列

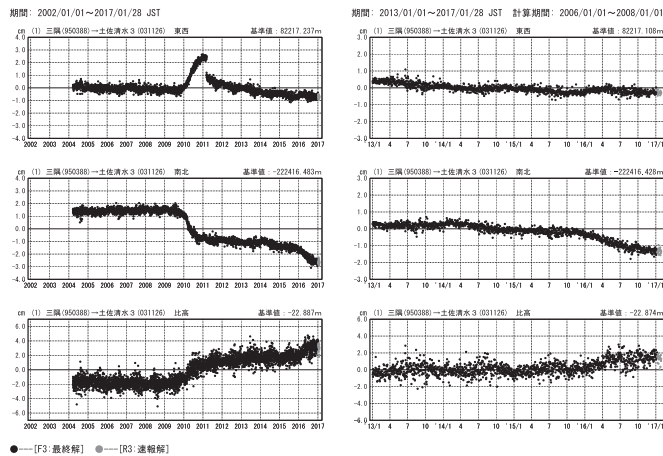
Fig.3 Time series of height changes of benchmarks along the leveling route on the coast of Muroto Peninsula from BM5106 (Mugi) to BM5140 (Muroto) referred to BM5106(Mugi).

豊後水道周辺の非定常的な地殻変動（１）

豊後水道周辺で2015年12月頃から観測された非定常的な地殻変動は、全般的にはほぼ収まったように見える。



一次トレンド除去後グラフ



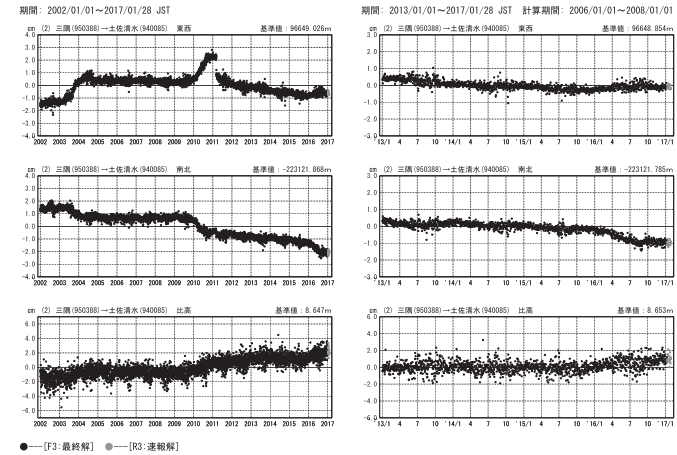
※全観測局に2016年4月の熊本地震に伴う地殻変動の補正を行った。

第4図(a) 豊後水道周辺の非定常的な地殻変動（1）(水平)（一次トレンド除去）
Fig.4(a) Transient horizontal deformation in the Bungo channel area (1) (horizontal) (removing liner trend).

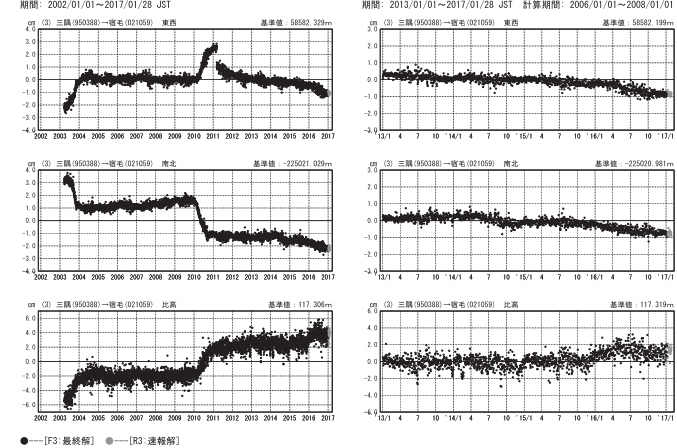
第4図(b) 一次トレンド除去後グラフ
Fig.4(b) Time series of horizontal and vertical components of transient deformation in the Bungo channel area (removing liner trend) (1/2).

豊後水道周辺の非定常的な地殻変動（２）

一次トレンド除去後グラフ



一次トレンド除去後グラフ



※全観測局に2016年4月の熊本地震に伴う地殻変動の補正を行った。

第5図 豊後水道周辺の非定常的な地殻変動（2）（一次トレンド除去後グラフ）

Fig.5 Time series of horizontal and vertical components of transient deformation in the Bungo channel area (removing liner trend) (2/2).